

【事業実績】

遠軽町埋蔵文化財センターを中核館として、3Dモデリングデータを活用した情報発信と国際黒曜石会議開催に向けた受入体制の整備の2点に関する事業を実施した。

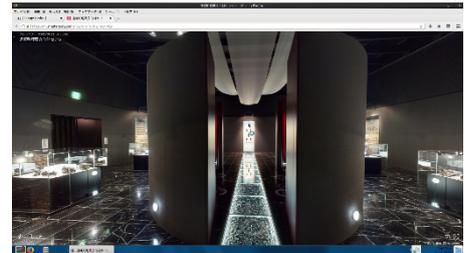
【1】3Dモデリングデータを活用した情報発信

(1) 3Dモデリングデータの作成

- ・3Dモデリングデータ作成に関する事前打合せ（10月21日）
- ・3Dスキャンカメラによる埋蔵文化財センター展示室の撮影（12月14日）
- ・撮影データ編集作業（12月15日～2月26日）
- ・学校教育での活用（12月22日）
- ・アンケート調査（2月16日～26日）

(2) 外国語での情報発信

- ・展示資料、解説の翻訳（11月16日～2月26日）
- ・ホームページの編集・公開（3月1日～10日）
- ・外国語パンフレットの作成（11月16日～3月19日）



【2】国際黒曜石会議開催に向けた受入体制の整備

(1) 受入体制の整備

- ・学術運営部会の設置（8月28日、11月10日、2月24日）

(2) 普及啓発活動の実施

- ・利害関係者とのワークショップの実施（6月22日、10月15日）
- ・関係団体と連携した観光イベントの開催（7月23日～2月28日）
- ・アンケート調査（7月23日～2月28日）

■成果物

- ・埋蔵文化財センター展示室 3Dモデリングデータ及び外国語パンフレット、本事業の成果をまとめた実績報告書はホームページ上で公開を行う（<http://geopark.engaru.jp/>）

■今後の課題

本事業の目標は2023年に開催が内定した国際黒曜石会議を契機として地域全体でグローバル化に向けた受入体制を整備することである。この達成のため①文化財の国際的な情報発信と、②研究者を含む外国人観光客の受入体制の整備の2点に関する事業を実施し、その効果はアンケート調査、ホームページのアクセス数や利害関係者とのワークショップによるヒアリングで測定している。

①文化財の国際的な情報発信は、遠軽町埋蔵文化財センター展示室の3Dモデリングデータと多言語による情報発信により重要文化財「北海道白滝遺跡群出土品」を含む文化財にアクセスしやすい環境を整備することができた。さらに外国語パンフレットの作成により外国人観光客の施設利用が促進することが期待される。また、この新たな文化財の保存記録方法はICT環境を活用し学校教育など多方面への活用が見込まれる。

②研究者を含む外国人観光客の受入体制の整備では国際黒曜石会議の開催に向けて学術運営部会を設置し、運営方針や大会プログラム案について協議する体制を構築する。また、埋蔵文化財センターが仲介役となり学術運営部会と地域内の団体との意見交換を行う必要性も確認することができた。

また、関係団体と連携した観光イベント「おうちでインカルシ探偵団」は新型コロナウイルス感染

症の影響を考慮し、在宅でも参加が可能なホームページを活用した開催形式を採用した。この結果、全国に情報発信と地域の自然、歴史、文化資源への関心の高さを確認することができた。

本事業の成果を今後も活用していくために、ホームページ内の外国語対応の充実、3Dモデリングデータを活用した学校教育の学習プログラムや解説シートの作成、自然、歴史、文化資源と観光資源を融合するための連携強化を進め、国際黒曜石会議の運営、受入環境の整備、人材の育成から地域振興のための基盤を整備していく必要がある。